



国立がん研究センターと第一三共株式会社による 包括的研究提携契約調印式と記者会見 次第

開催日時 平成24年5月22日（火） 14:00～15:00
開催場所 国立がん研究センター 管理棟1階 第1会議室

出席者 国立がん研究センター
理事長 堀田 知光
研究所長 中釜 斉
研究所 ゲノム生物学研究分野長 河野 隆志
第一三共株式会社
執行役員 研究開発本部 研究開発企画部長 赤羽 浩一
研究開発本部 研究担当部長 大槻 昌彦
研究開発本部 研究担当部 癌研究所長 青沼 正志

1. 挨拶

国立がん研究センター 堀田 知光
第一三共株式会社 赤羽 浩一

2. 今回の包括的研究提携契約の締結について

国立がん研究センター 中釜 斉
第一三共株式会社 青沼 正志

3. 合意書調印式、写真撮影

4. 質疑応答

資料1 プレスリリース

資料2 国立がん研究センター・第一三共株式会社包括的研究提携契約

資料3 第一三共の癌領域の取組みと共同研究への期待

資料4 国立がん研究センターと第一三共株式会社の
包括的研究提携契約に関する合意書



Daiichi-Sankyo

2012年5月22日

各 位

 独立行政法人国立がん研究センター
 第一三共株式会社

国立がん研究センターと第一三共、包括的研究提携契約を締結

独立行政法人国立がん研究センター(理事長:堀田 知光、東京都中央区、以下「国立がん研究センター」)と第一三共株式会社(代表取締役社長:中山 譲治、東京都中央区、以下「第一三共」)は、双方が有する研究能力を活かし、優れた抗がん剤創出を目指した共同研究を推進するための包括的研究提携契約を締結しましたので、お知らせいたします。

本契約は、国立がん研究センターの有する高度ながん研究技術および臨床経験と、第一三共の有する高い研究能力と創薬技術力を融合することによって、優れた抗がん剤創出のための研究開発を通じて、がんの制圧と人々の健康増進に寄与することを目的としています。

本契約で包括的な提携関係を構築することによって、今後の個別共同研究を迅速に進めることが可能となります。国立がん研究センターは、保有する研究成果のうち第一三共の研究・創薬方針に合致するものを第一三共に提示し、両社協議の下(1)創薬標的探索研究 もしくは(2)初期創薬研究を共同で進めます。創薬標的探索研究では創薬標的の探索、同定、評価を行い、初期創薬研究ではハイスループットスクリーニングによる創薬候補化合物の取得、または抗体の取得を行います。

国立がん研究センターは1962年に開設され、日本におけるがん治療および研究をリードする医療機関であり、創薬に繋がる豊富な研究成果を有しています。一方、第一三共は、がんを重点疾患領域の一つと位置づけ、経営資源を重点的に配分して、自社研究のみならず様々な提携先との共同研究・開発を精力的に展開しております。

国立がん研究センターと第一三共はこれまでも個別のテーマを通じて共同研究を進めてまいりました。今回の合意により、さらに緊密な関係が構築され、共同研究がより一層推進されていくことが期待されます。4月に合同会議を開催し、国立がん研究センター第一三共との間で意見交換が行われ、本契約の戦略および今後の方向性について議論されました。

両者は、高い研究能力を通じて、患者の方々に一日も早く優れた抗がん剤を提供するという使命を共有しています。本契約により、両者の協力体制が拡充され、有望な抗がん剤の研究が大きく前進することを確信しています。

以 上

本件に関するお問い合わせ先

独立行政法人国立がん研究センター 総務部総務課広報室 TEL:03-3542-2511(代表) URL: http://www.ncc.go.jp/	第一三共株式会社 コーポレートコミュニケーション部 報道関係者の皆様 TEL:03-6225-1126 株式市場関係者の皆様 TEL:03-6225-1125 URL: http://www.daiichisankyo.co.jp/
---	---



Daiichi-Sankyo

国立がん研究センター・第一三共株式会社 包括的研究提携契約

独立行政法人国立がん研究センター
研究所長 中釜 斉

国立がん研究センターの理念と使命

▶ 理念

- ▶ 1. 世界最高の医療と研究を行う
- ▶ 2. 患者目線で政策立案を行う

All Activities for Cancer Patients

職員の全ての活動はがん患者の為に！

▶ 使命

- ▶ がん難民をつくらない
- ▶ 調査
- ▶ 研究
- ▶ 技術開拓
- ▶ 先進医療の提供
- ▶ 教育
- ▶ 政策立案
- ▶ 国際がんネットワーク

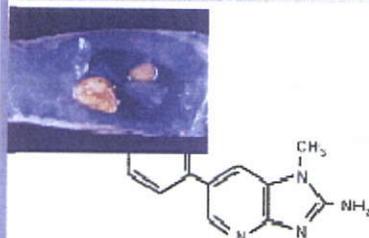
▶ 組織

- ▶ 研究所
- ▶ 中央病院
- ▶ 東病院
- ▶ がん予防・検診研究センター
- ▶ がん対策情報センター

研究所における研究分野

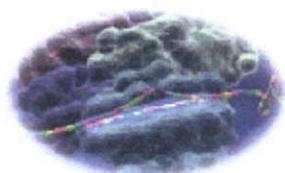
基礎研究担当部門

I. 発がん機構研究グループ



分子病理分野
 遺伝医学研究分野
 家族性腫瘍研究分野
 多段階発がん研究分野
 ウイルス発がん研究分野
 発がんシステム研究分野

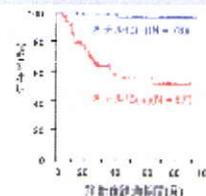
II. 分子標的 研究グループ



転移浸潤シグナル研究分野
 分子細胞治療研究分野
 腫瘍生物学分野
 がん分化制御解析分野
 造血器腫瘍研究分野

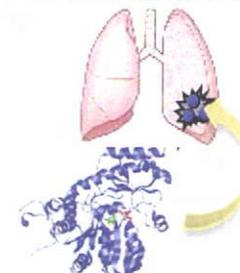
TR担当部門 (トランスレーショナルリサーチ)

III. 分子診断・ 個別化医療 開発グループ



薬理ゲノム学研究分野
 創薬プロテオーム研究分野
 エピゲノム解析分野
 ゲノム生物学研究分野
 がんゲノミクス研究分野

IV. 治療 開発グループ



がん患者病態生理研究分野
 がん幹細胞研究分野
 遺伝子免疫細胞医学研究分野
 ゲノム安定性研究分野
 創薬臨床研究分野

新領域創成プロジェクトグループ

難治がん研究分野
 がん予防研究分野
 多層オミックス・バイオン
 フォーマティクス分野
 脳腫瘍連携研究分野

バイオバンク

コアファシリティー

動物実験支援施設
 RI実験支援施設
 基盤研究支援施設

診療部門・予防検診部門

研究成果活用のための包括連携協定

従来は個々の研究者・治験医師ごとに進められていた企業との共同研究・治験について、新たに企業との間で包括連携協定を締結し、統括的な管理の下に、研究の質及びスピードを向上させる。



世界に先駆け
研究成果の
実用化を目指す

臨床開発を推進する包括提携



■ファイザーとのパートナーシップ契約締結

治験の質の向上を図り、国際的競争力を高め、革新的な抗がん剤の開発促進を通じて医療に貢献する。国際的な治験のコストやスピードに関する情報提供、医療関係者のトレーニングを実施している。



■アストラゼネカとのMaster Clinical Agreement締結

前臨床の段階からのパイプライン情報を含めた情報交換により、第一相を含む国際共同臨床試験を推進する。抗がん剤のドラッグラグ解消のみならず、グローバルでのFirst in humanを目指す。

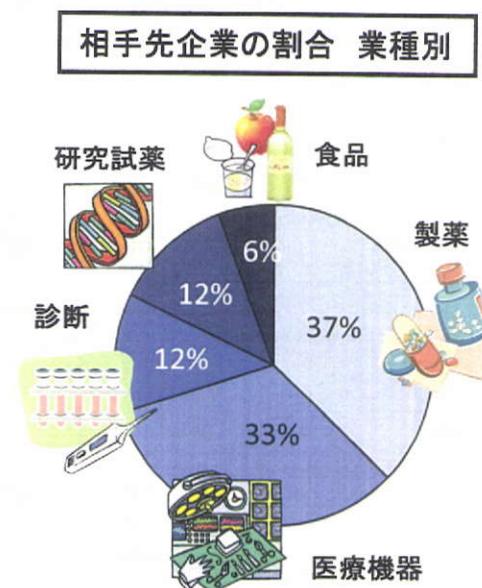
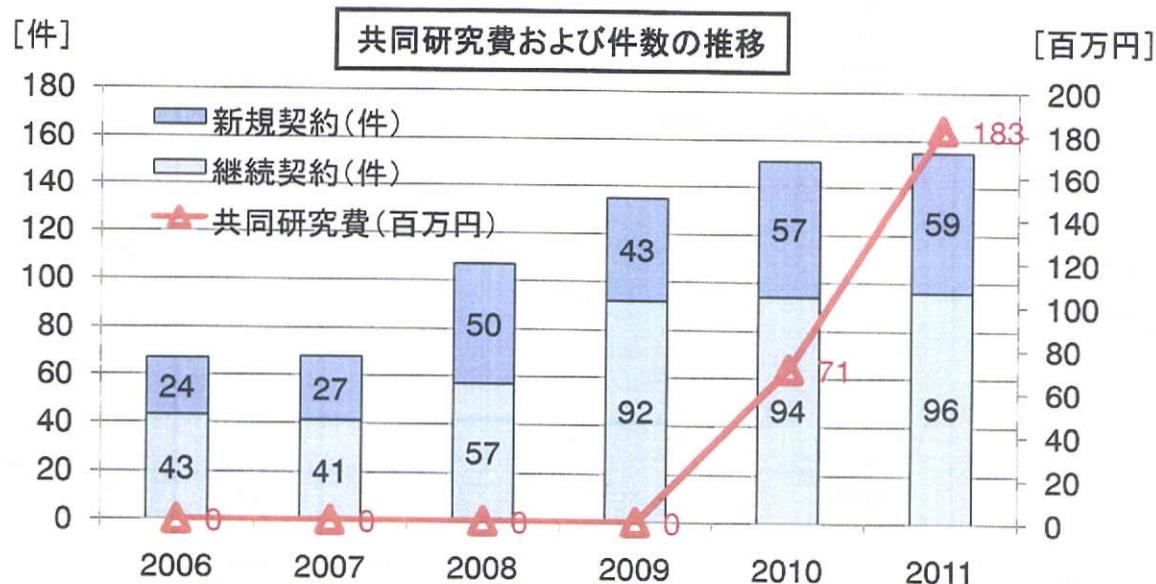
次世代医療分野の先端技術との融合

■島津製作所と包括共同研究契約を締結



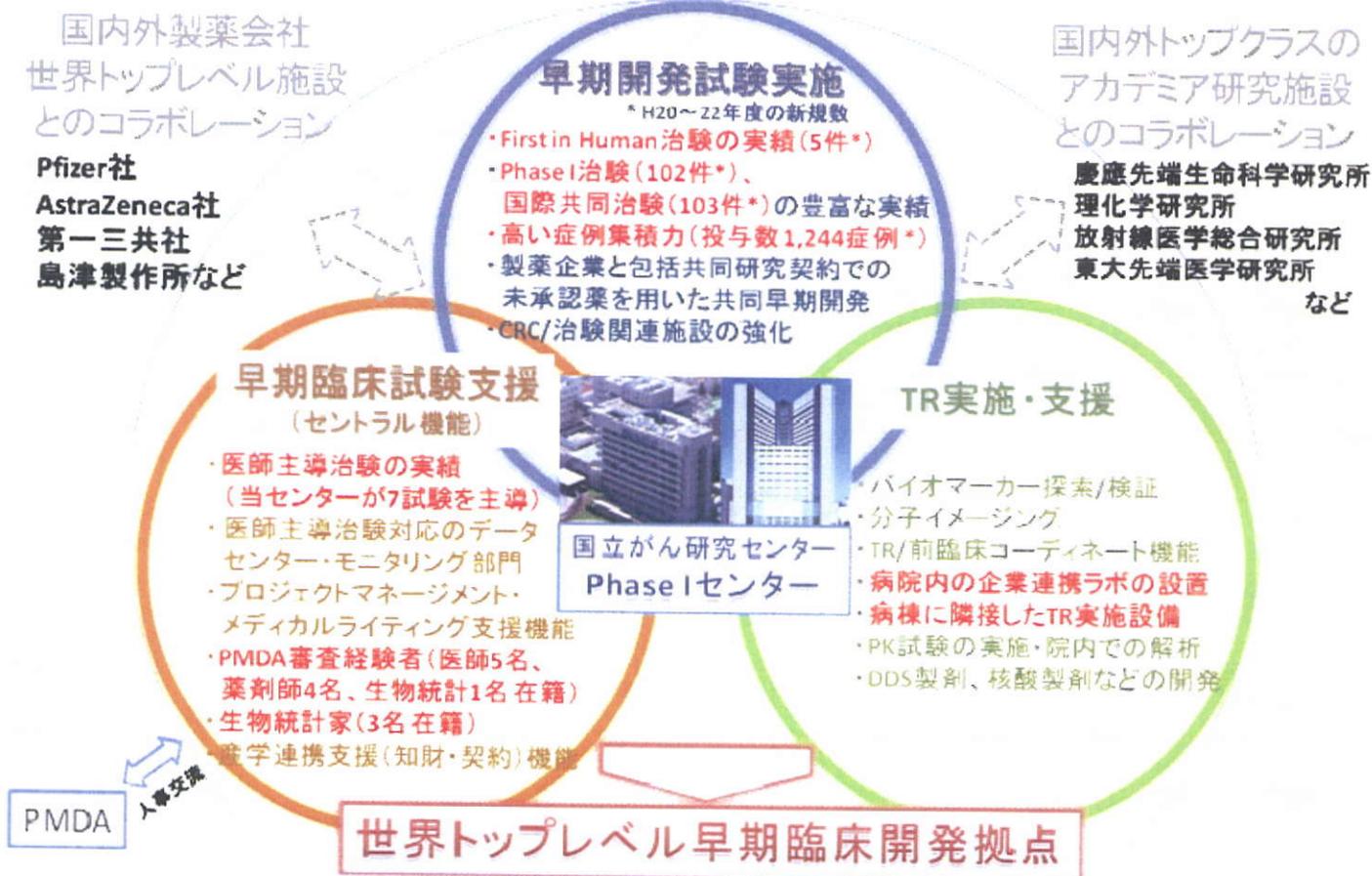
高度ながん研究技術および臨床経験と、次世代医療分野に関する先端技術を融合することによって、創薬プロセス革新やがんの超早期診断を実現し、がんの制圧と人々の健康増進に寄与する医療技術を開発することを目指す。

共同研究の推移



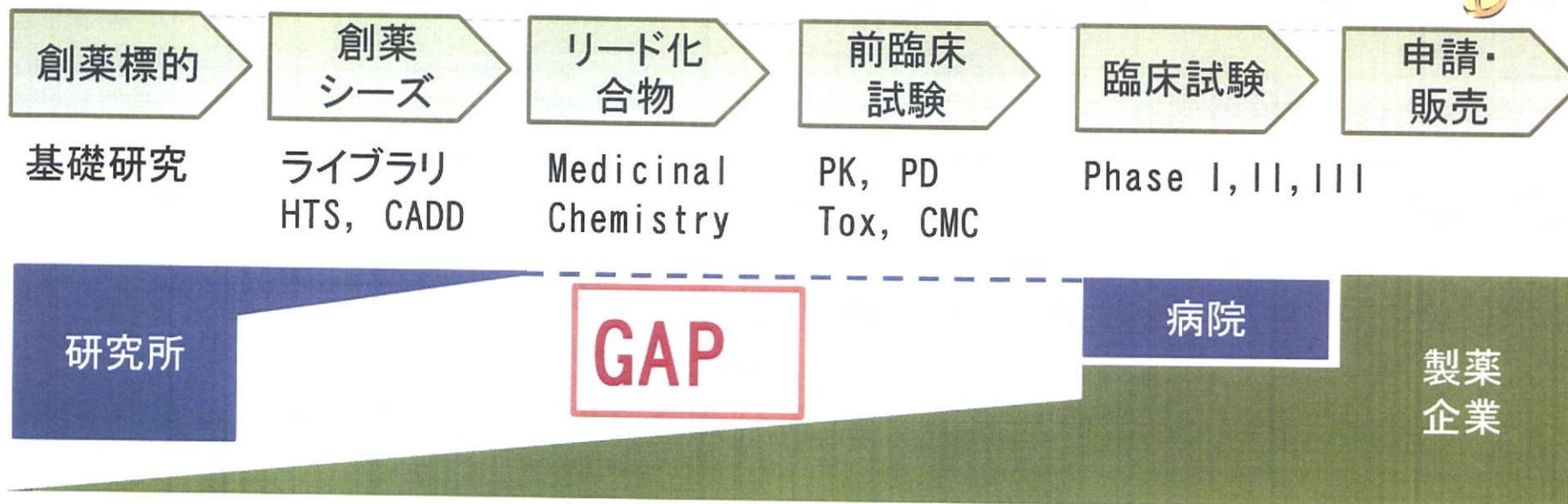
2010年度の独法化と共に、知的財産戦略室を設置し、共同研究と知的財産管理を担当している。共同研究件数、研究費とも増加しており、2011年度は155件、1.8億円の共同研究費を得ている。共同研究の相手先は製薬企業を初め、医療機器、診断薬企業が主な提携先となっている。

早期・探索的臨床試験拠点 Phase I センター



- アカデミア発シーズ開発 → 我が国発の医薬品の開発を促進
- グローバル製薬企業とコラボレーション → 新薬開発戦略のイニシアチブ
- ドラック・デバイスラグ克服を超えて、'真'のイノベーションを創出！！

医薬品産業への橋渡し



GAPの解消のために

創薬の早期段階からの企業との共同研究
ベンチャー企業の提携、創設

企業とのオープン
イノベーション

アカデミア
創薬研究

化合物ライブラリ、スクリーニング、合成
薬物動態、安全性、製剤開発等は外注

第一三共との包括的研究提携



世界に先駆け
研究成果の
実用化を目指す

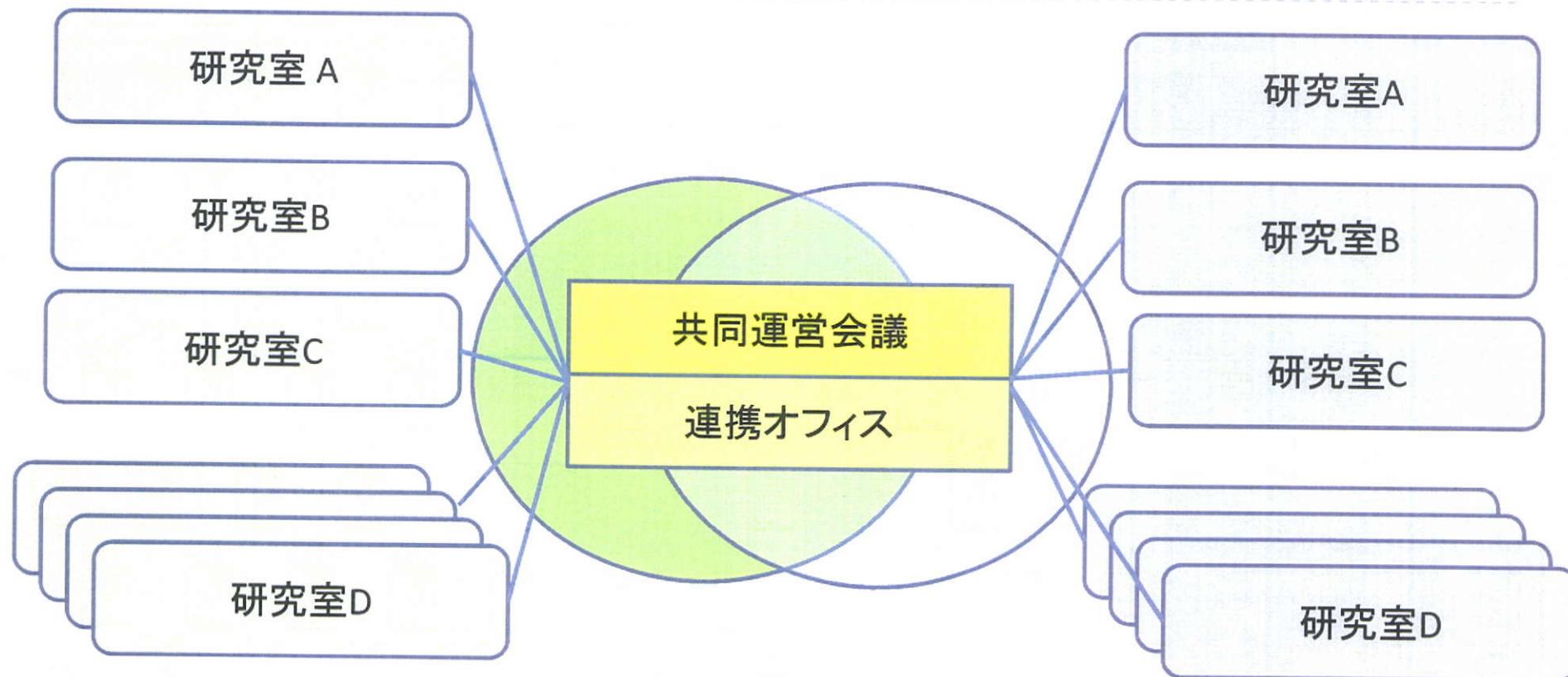
双方が有する研究能力を活かし、優れた抗がん剤創出を目指した共同研究を推進する



優れた抗がん剤の創出

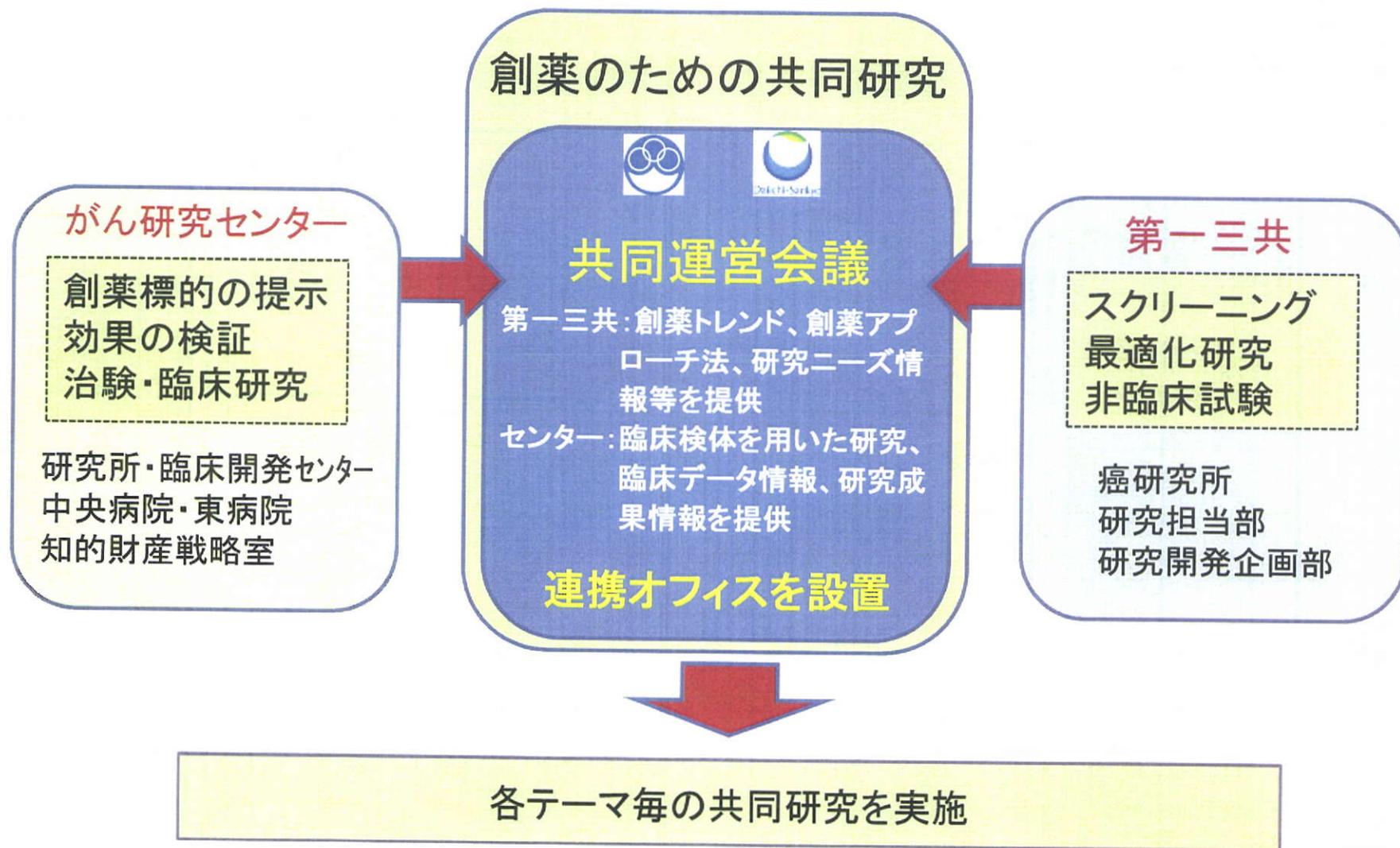
がんの制圧と人々の健康増進に寄与する

個人対個人から組織対組織での共同研究へ

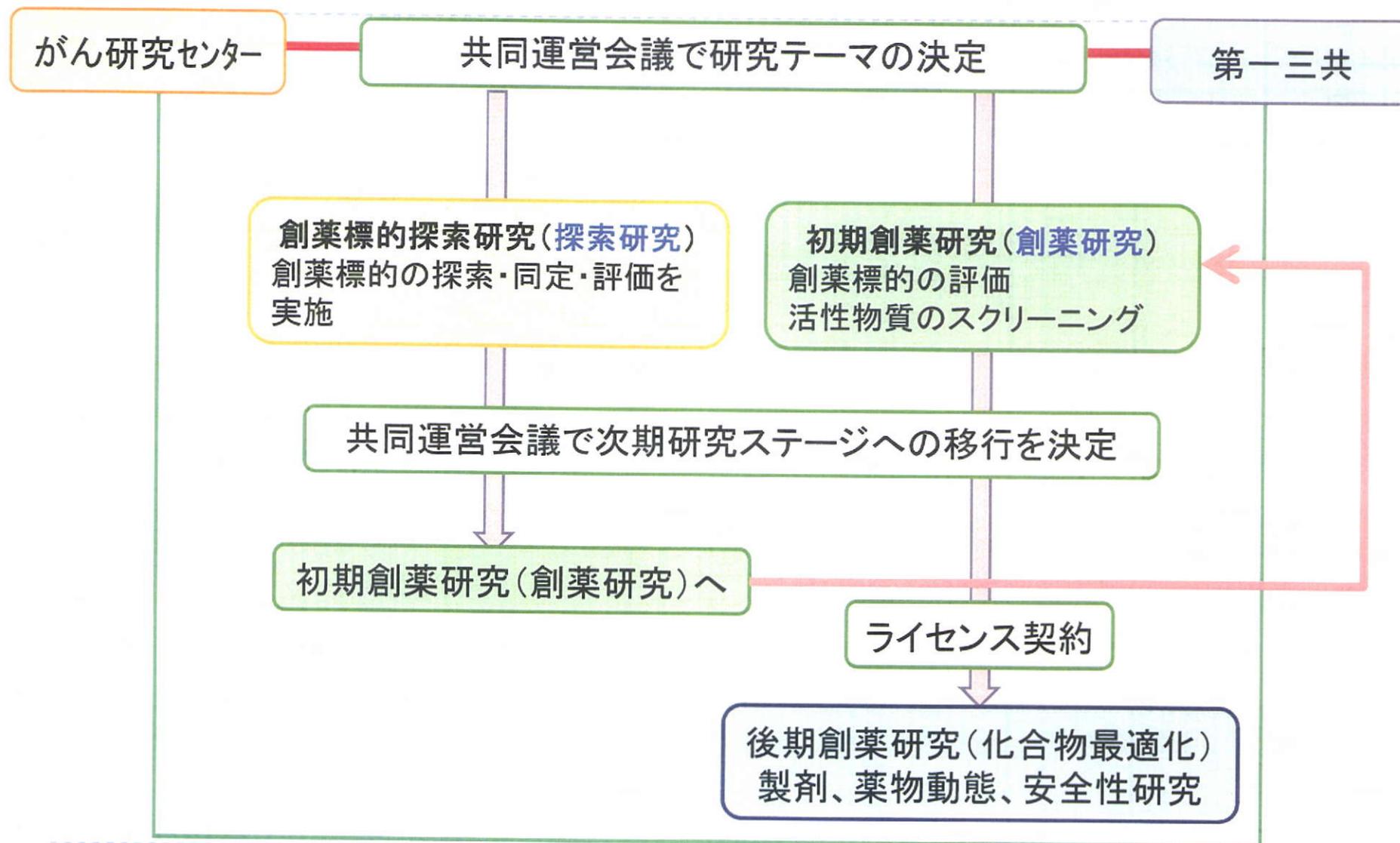


- 共同運営会議の設置（責任者を含む少人数で運営）
- Scientific Seminarを定期的に行う（年1回程度）
- 個別共同研究の提案（個人対個人ではなく、組織対組織）
- 連携オフィスが共同研究活動が促進されるよう支援する

連携スキーム



共同研究の流れ



共同運営会議メンバー

NCC

- ・ 中釜研究所長
- ・ 大津臨床開発センター長
- ・ 山田研究所上席副所長

DS

- ・ 大槻研究担当部長
- ・ 青沼癌研究所長
- ・ 中西研究開発企画部研究企画グループ長

連携担当者

NCC

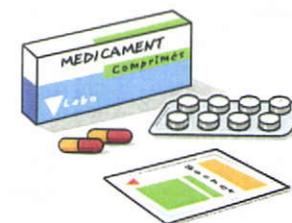
- ・ 知的財産戦略室

DS

- ・ 研究企画グループ

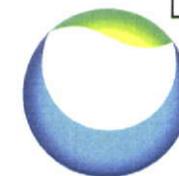
今後の展開

- ▶ 共同研究テーマの選定・推進
 - ▶ 創薬候補化合物の獲得
- ▶ 前臨床研究での協力
 - ▶ 臨床情報を用いた創薬候補化合物の絞り込み
- ▶ 早期・探索的臨床試験拠点 (Phase I センター) での治療への展開
 - ▶ First-in-human試験



ご清聴ありがとうございました





第一三共の癌領域の取組みと 共同研究への期待

～ 日本発の革新的な抗がん剤創出 ～
を目指して

2012年5月22日

第一三共株式会社 癌研究所
青沼 正志

第一三共 : ディスカバリー研究における重点領域



Key Message

未充足医療ニーズの高い
重点領域での競争力の向上

重点領域

癌

循環代謝

先端領域

未充足ニーズへの
新たなチャレンジ

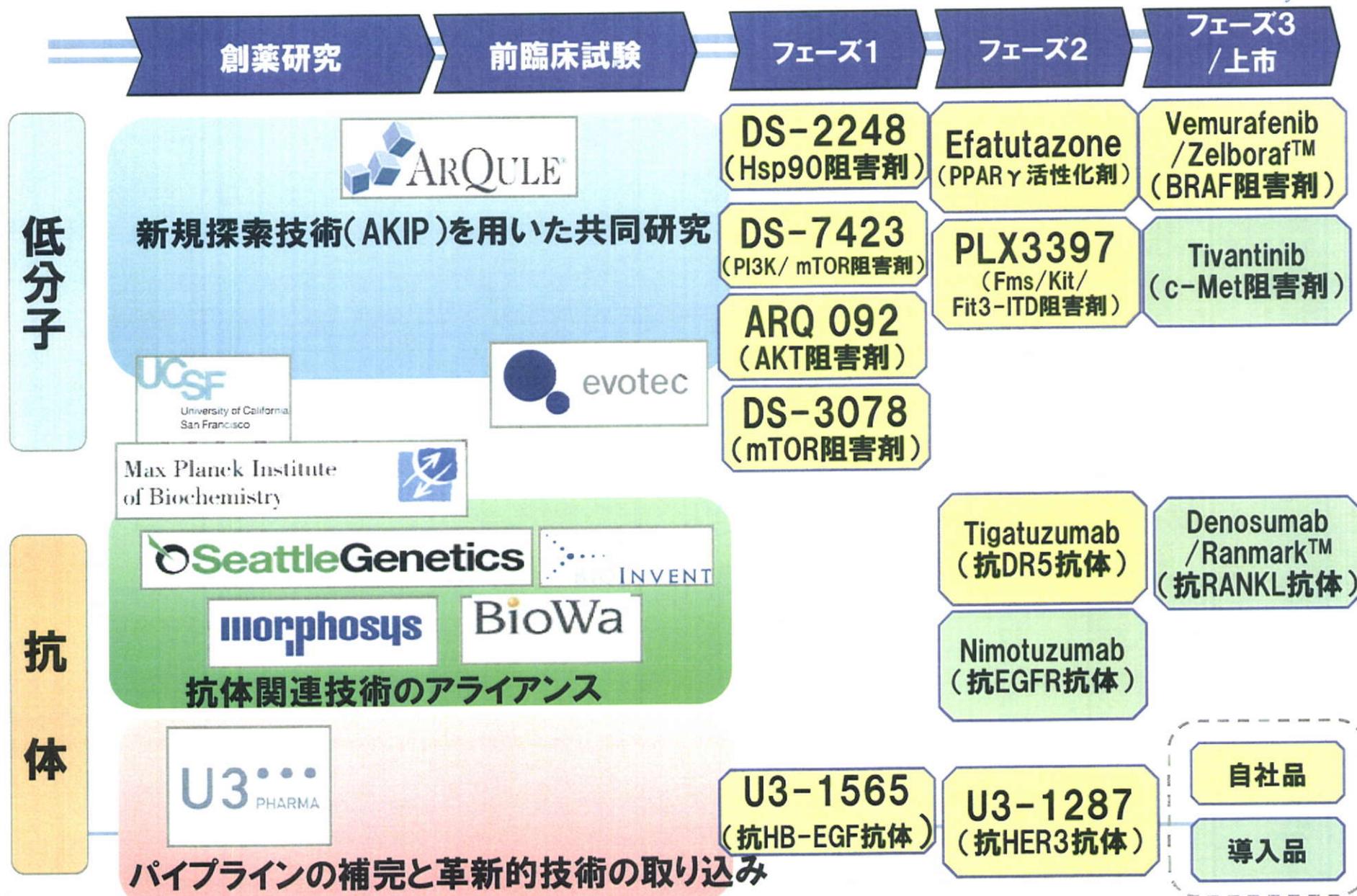
2015年に向けて
現在の研究基盤・パイプラインの
上に更なる競争力を構築する

2015年以降に向けて
従来の疾患領域に
とらわれない新たな
切り口でチャレンジする

がん領域 : パイプライン拡大への取り組み



Daiichi-Sankyo



新規の創薬シーズ・創薬技術獲得への取り組み - オープン・イノベーション -



みんなで育てる創薬プロジェクト〔タネデス〕

創薬研究シーズ募集

募集期間 | 2012年6月1日(金)～6月15日(金)



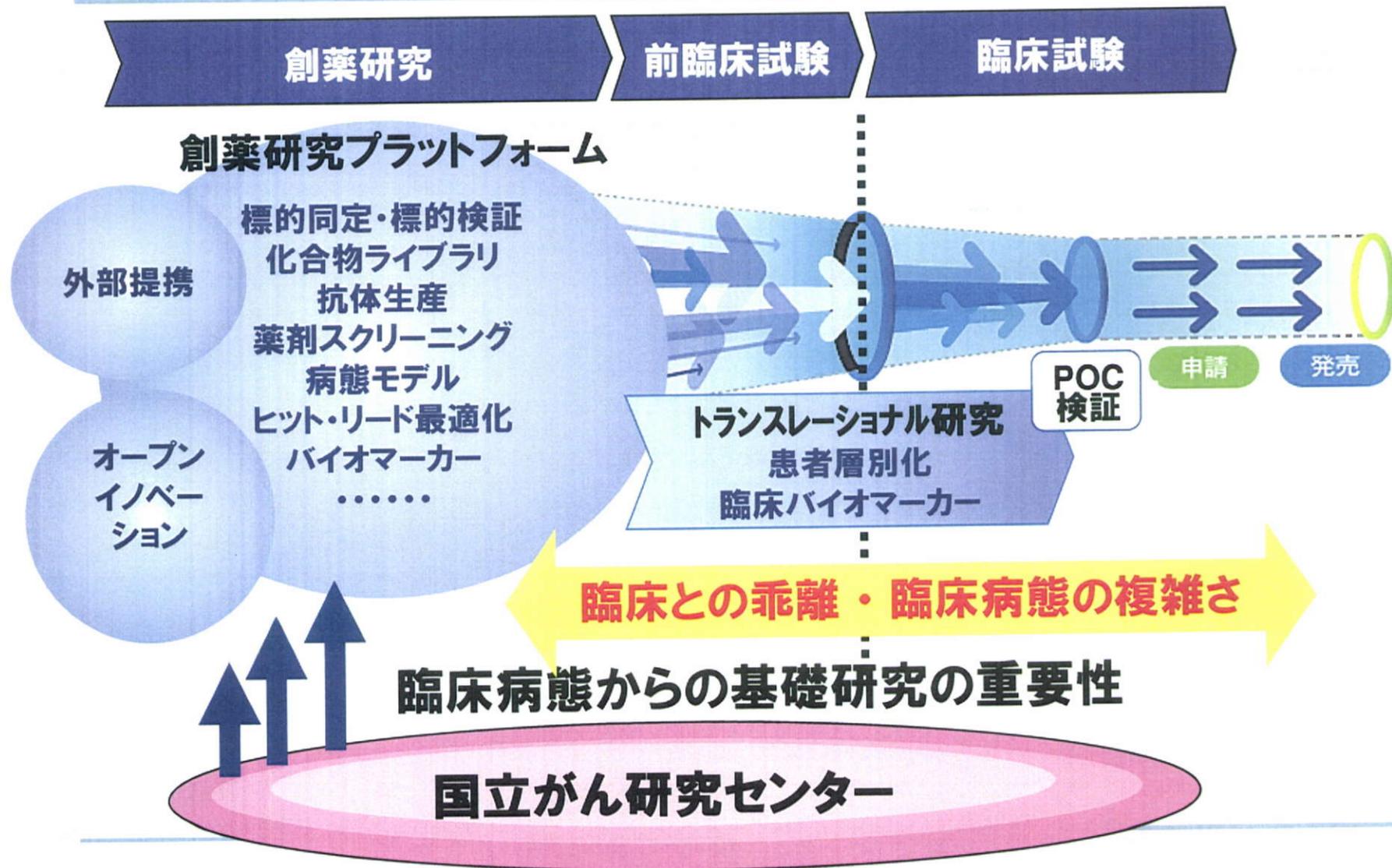
創薬に関わる様々な研究シーズや医薬品製造に関わる技術シーズを、日本国内の研究者を対象に広く募集

がん領域で募集中の研究シーズ

特に増殖・生存シグナル、エピジェネティクス、上皮・間葉転換、がん幹細胞、転移あるいはがん微小環境の各分野に関する、以下の研究

1. 機能解析ないしヒトのがんにおける発現解析が、終了もしくは進行中である新規がん標的分子の研究
2. 新規がん標的分子のユニークな探索法
3. 新規がん薬効評価モデル(細胞、組織、動物)の研究

がん領域の研究開発アプローチと創薬研究の課題





Daiichi-Sankyo

包括提携の目的

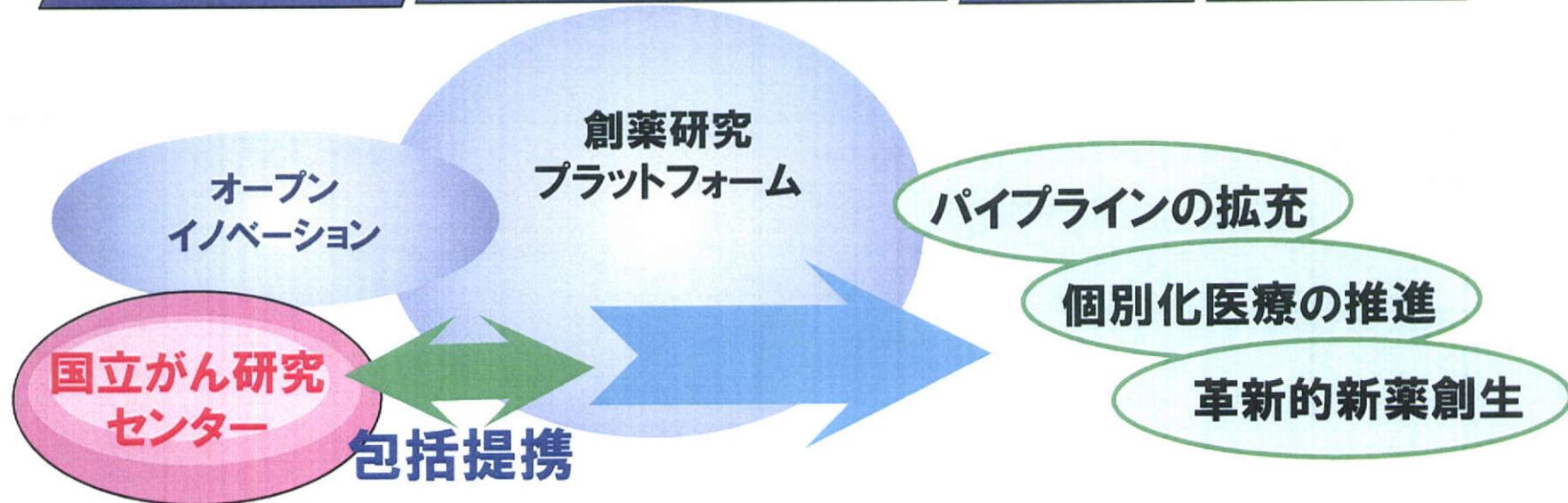
国立がん研究センターで実施される**臨床検体を用いた解析や基礎研究からの各種成果**(がん標的分子候補や病態モデル系等)について、創薬研究への展開・応用性を、国立がん研究センターとの密な連携のもと、**迅速かつ効果的・効率的に検証し、革新的新薬の創生に繋げる。**

基礎研究

創薬研究

前臨床試験

臨床試験



臨床病態の解析・基礎研究
と創薬の橋渡し

包括提携の研究計画

がん標的分子に関する研究成果

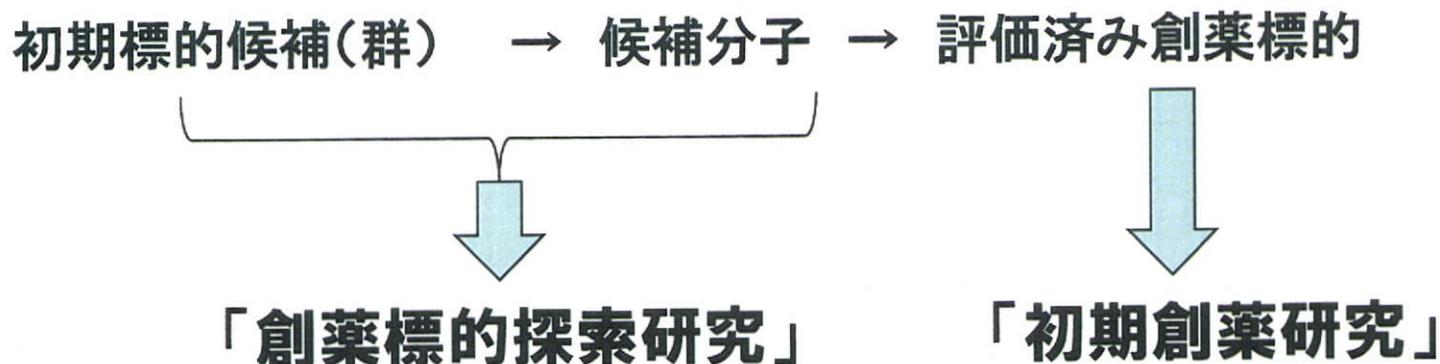
研究計画（研究期間：原則1年）

i) 創薬標的探索研究:

標的探索, 同定, 評価; 初期創薬で必要な研究情報試料を獲得

ii) 初期創薬研究:

HTSヒット化合物, 抗体の取得; DSが単独研究可能なヒット取得



日本発の革新的な抗がん剤創出を目指して



国立がん研究センターの有する高度ながん研究技術
および臨床経験と、第一三共の有する研究能力と創
薬技術力を融合することによって、優れた抗がん剤
創出のための研究開発を推進し、がんの制圧と人々
の健康増進に寄与してまいります。

国立がん研究センターと第一三共株式会社の 包括的研究提携契約に関する合意書

独立行政法人国立がん研究センターと第一三共株式会社は、がんの制圧と人々の健康増進に寄与することを目的とし、双方が有する研究能力を活かして、優れた抗がん剤創出を目指した共同研究を推進するための包括的研究提携契約を締結することについて合意に達した。

平成24年5月22日

独立行政法人国立がん研究センター

理事長 _____

第一三共株式会社

執行役員 研究開発企画部長 _____